

第7回第三者委員会の意見と対応方針(案)

平成 2 9 年 7 月 2 5 日

農 林 水 産 省

第7回第三者委員会の主な意見と対応方針(案)

区分	意見	委員名	対応方針(案)
第6回第三者委員会の意見と対応方針(案)	・効果の発現状況を比較して示しているが、この数値が有意差があるか否かチェックする必要。	鷺谷委員	・前回、検定を行っていなかった福島県白河市における自己評価及び市町村評価結果について検定を実施したが、標本数が少なく有意差がないデータもあったことから、参考資料として取り扱うこととしたい。
	・取組困難地域や再開組織を紹介してもらったが、今後は、マイナスをカバーして良くなった事例を紹介してもらいたい。	広瀬委員	・中山間地域など地理的条件の不利な地域や小規模集落における取組の事例を整理する。 【資料3】
事業の仕組みの検証(案)	・地方裁量による活動については、もっと活発になって欲しいと思っているが、特認の活動について他の地域からは情報が得にくいので、事例も含めて周知していただきたい。	水谷委員	・中間評価(案)において、『IV 効果の検証』の『7 地域の特色ある取組』に記述する。 【資料4】
	・地方裁量はとても重要だと思うが、横展開していく可能性があるのか。横展開するということは、本制度の中に取り込んでいく要素がないのかということもポイントになる。	中嶋座長	・地方裁量による特認の活動を本制度に取り込む必要があるか否かについては、取組状況を踏まえ今後検討。
中間評価の骨子(案)	・都市的地域のほうが効果等が大きくて、中山間地域は効果が余りないと読み取れるが、人口が集中しているところから離れた農業地域の難しさを方針として中間評価書に盛り込むべきではないか。	西郷委員	・統計データの分析結果等について、委員会において説明。
	・構造改革の後押しする効果が出てきているという評価の仕方は非常に難しいと思う。どういう形で効果を整理していくかデータ整理と表現の仕方に注意する必要。	水谷委員	・中間評価(案)において、『IV 効果の検証』の『5 構造改革の後押し等地域農業への貢献』に記述する。 【資料4】
	・取組状況の評価について、何を本当に伝えるべきかしっかりと書いた方がよい。事実よりも踏み込んだ、この委員会での評価の核心のようなものを書くべき。	河野委員	・中間評価(案)において、『III 実施状況』の『4 取組状況の評価』及び『IV 効果の検証』の各項目に記述する。 【資料4】
	・効果の検証において、判断した根拠を示す必要があるが、数字だけ示されてもどう読み取れば良いかわからない。その数字の読み方を書き込んでいただきたい。	河野委員	・中間評価(案)に記載する数値の根拠となる参考図表の番号を明示するとともに、評価のポイントを記述する等わかりやすく表現する。 【資料4】
	・農地維持支払は農業者だけでも取り組めるが、それに関してどのように評価するのか。農地維持支払の意義と経年に対する評価ということで指摘していただきたい。	中嶋座長	・中間評価(案)において、『V 事業の仕組みの検証』の『1 対象農用地・対象組織』に記述する。 【資料4】
	・施設の長寿命化への取組について、どういう意義があるのか記載する必要。	中嶋座長	・中間評価(案)において、『IV 効果の検証』の『3 農業用施設の機能増進』に記述する。 【資料4】
その他指摘事項	・地元の方が活動の写真を撮って、その情報を送るアプリを開発するなど、全国の活動状況を情報交換できるような参加型の取組も検討されたい。	鷺谷委員	・優良事例については、本省HPやメールマガジンを活用して情報発信するとともに、農村振興局公式フェイスブックにも掲載するなどSNSの活用を図っている。 ・事例を整理して公表している都道府県もあることから、今後の取扱いについて、全国の推進組織と相談したい。
	・写真とコメントなどの情報をアップするのであれば、ホームページやフェイスブックなどのSNSの活用も検討されたい。	河野委員	

第6回第三者委員会の主な意見と対応方針(案)【参考】

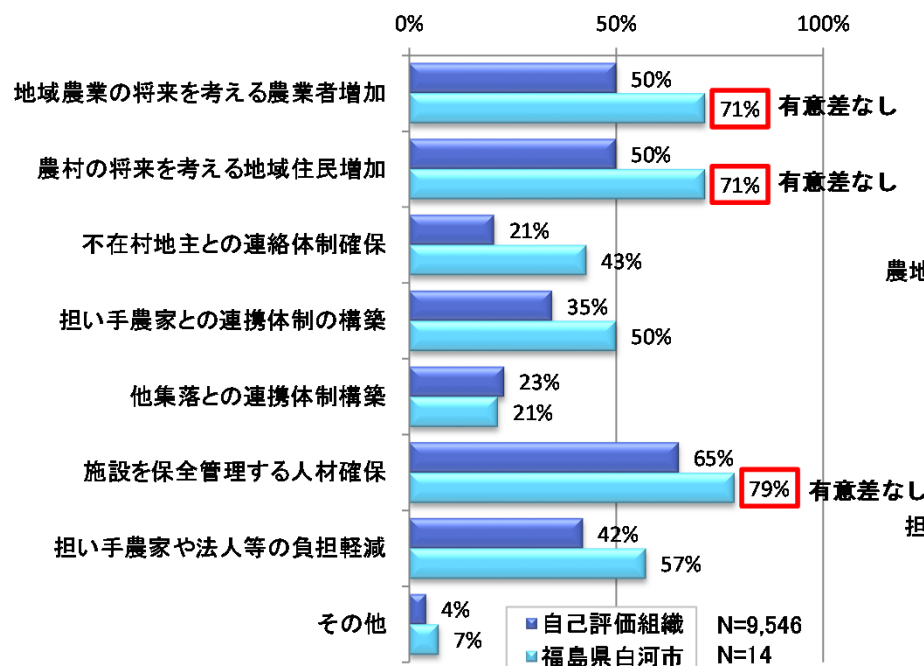
区分	意見	委員名	対応方針(案)
ロジックモデル	・活動事例について、過去の活動経緯をロジックモデルに表現できれば、新たに活動開始した組織の参考になるのではないか。	星野委員	・活動事例について、過去の活動経緯を踏まえた事例集の作成。 【資料3】
	・新たな土地改良長期計画にて検討された農村振興プロセス事例集の枠組みのように、どのようなサイクルで発展したのかを整理できるのではないか。	中嶋座長	

第7回第三者委員会において、資料1に示した福島県白河市の分析結果

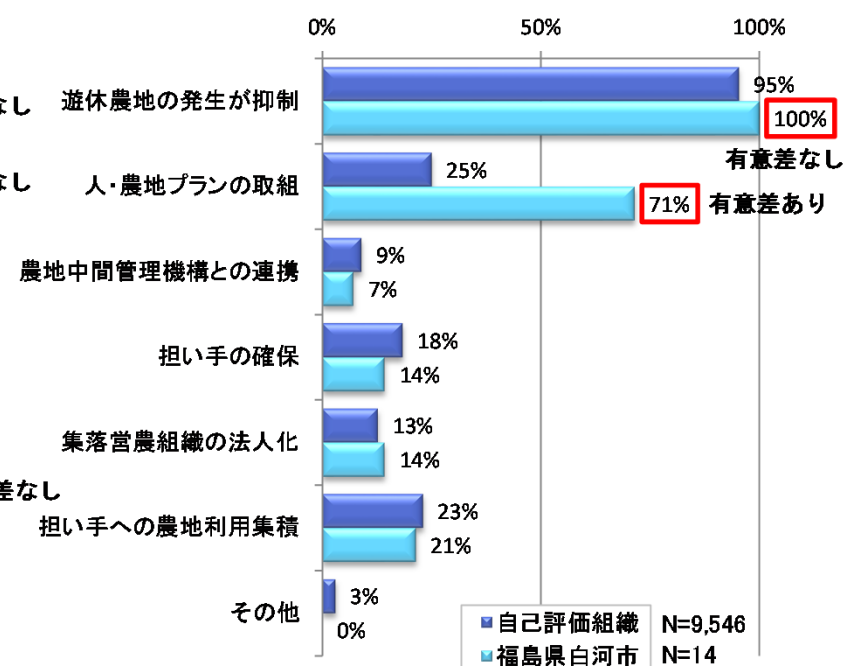
1 自治体による活動組織に対する独自の支援策

- 福島県白河市では、農業者の様々な悩みに応えるため、農業者のための相談所となる「人・農地相談センター」を平成27年4月に開設しており、その効果について本年度試行した活動組織の自己評価・市町村評価結果にて分析。
- 活動組織の自己評価では、推進活動による効果の発現状況として、自己評価を行った活動組織の79%が「施設を保全管理する人材が確保」されたと回答。また、71%が「地域の農業の将来を考える農業者が増加」、「農村の将来を考える地域住民が増加」したと回答。
- 白河市の評価では、多面的機能支払の取組開始以降の評価対象組織の地域の変化について、全ての活動組織が「遊休農地の発生が抑制されている」と評価。また、農地の貸し借りなどの相談について、関係機関が一体的に対応することにより、71%の活動組織が「人・農地プランを踏まえた具体的な取組」が進められていると評価。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動の
効果発現状況の自己評価



地域資源の適切な保全管理のための推進活動の
市町村評価



福島県白河市における自己評価及び市町村評価結果の検定結果

前回委員会において、分析結果として示した数値の検定を行った。

地域資源の適切な保全管理のための推進活動の効果発現の自己評価

	自己評価組 組織全体	白河市	自己評価組 組織全体	白河市	p値	
地域農業の将来を考える農業者増加	4,773	10	50%	71%	0.1820	有意差なし
農村の将来を考える地域住民増加	4,765	10	50%	71%	0.1800	有意差なし
施設を保全管理する人材確保	6,212	11	65%	79%	0.4368	有意差なし
組織数計	9,545	14	100%	100%		

地域資源の適切な保全管理のための推進活動の市町村評価

	自己評価組 組織全体	白河市	自己評価組 組織全体	白河市	p値	
遊休農地の発生が抑制	9,098	14	95%	100%	0.8447	有意差なし
人・農地プランの取組	2,390	10	25%	71%	$p < 0.001$	有意差あり
組織数計	9,545	14	100%	100%		